

職員による自己評価

A環境面

- 体調不良などで職員が足りないことがある。
- 職員研修やOJTの機会は設けられている
- 建物にエレベーターがある。

B適切な支援内容

- 児発管が現場を見ることができる。
- 児発管と相談をしながら課題作成をしている。
- 月ごとにテーマを決めてSSTを実施している。

C関係機関との連携

- 子ども部会や放デイ連絡会などに参加して情報交換をしている。
- 主にご家庭と連携をして情報を得ている。

D保護者への説明責任・信頼関係

- 保護者とのやり取りは主に付箋やプリントを用いて視覚的にわかるように伝えている。
- 苦情に繋がる前に気が付くよう心掛けている。

E非常対応

- 月1での避難訓練、年1での合同避難訓練、年2の総合避難訓練を実施している。防災委員会を設置し、月1で会議を行っている。
- アレルギーについてのアンケートを取り管理している。

保護者による評価

A環境面

- 職員の配置数・専門性が支持されている。
- 専門性のある職員の異動を心配している。

B適切な支援内容

- 活動プログラムの固定化を感じていない。
- 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析され計画が作成されていることが支持されている。

C事業所からの情報発信

- 子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮事項に関して支持されており「根気強く接してくれて子供もスタッフさんは自分のことを良くわかって嬉しいと言っています」とコメントがあった。

D非常対応

- 避難訓練の実施については周知されており、指示されている。「子供が訓練のおかげで備えることなどができるようになりました。」とコメントがあった。

事業所内での分析

【共通点】

- 活動プログラムや固定化については保護者・職員共に固定化はないと判断している。
- 職員の専門性に関して支持されているため、変わらず研修を重ね専門性を高めていきたい。
- 避難訓練の実施を双方が把握できている。

【相違点】

- 職員数の不足を感じているが、保護者は感じていない様子がみられる。
- 職員がバリアフリー化ができていると感じている一方で、保護者は「どちらともいえない」と思っている。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- 専門性の高い職員を有している。
- 定期的な研修を行っている。
- 児発管との面談・相談を毎日行っている。

事業所の改善点

- 体調不良などを理由とした職員不足を解消して安心安全な環境を作る。
- 専門性の高い職員が知識を広めることで、どの職員も専門性を高めていきたい。
- 懇談会などで保護者同士の情報交換の場を提供する。

事業所の改善への取り組み

○専門性の高い職員が在籍しているという認識をしていただき、とてもありがたいです。その期待を維持するために研修を怠らず、初級職員の育成並びに中級・上級職員の知識を深めて参りたいと思います。また職員の情報のみでなく、保護者同士の情報交換できる場を作っていきたいと考えております。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度も自己評価シートへのご協力ありがとうございました。昨年度「どちらともいえない」という意見を多くいただきましたが、今年度ありがたいことに「はい」に多くの意見が寄せられました。また回数を重ねる毎に「備考欄」にコメントをたくさんいただけるようになりました。その多くは感謝のコメントで、職員一同とても嬉しく励みになっております。いつもご支援ご理解いただきましてありがとうございます。今後とも「こどもありき」を念頭に置き、精進して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。